

# 村上市景況調査報告

平成30年4～6月期の実績と平成30年7～9月期の見通し

調査時期：2018年6月中旬～7月上旬

調査対象：村上市内事業所 200社 有効回答数 146社（回収率73.0%）

〔業種別内訳〕 卸売・小売業62社、建設業41社、製造業30社、飲食店・宿泊業21社、サービス業46社  
〔地区別内訳〕 村上地区104社、荒川地区33社、神林地区21社、朝日地区19社、山北地区23社

実施機関：村上市地域経済振興課

村上商工会議所、荒川商工会、神林商工会、朝日商工会、山北商工会

分析機関：村上商工会議所

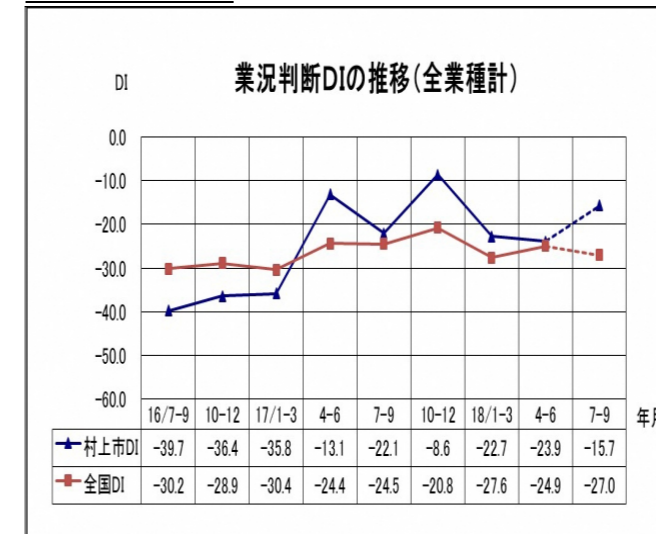
全国状況：全国中小企業動向調査結果【小企業編】（2018.4～6実績、2018.7～9見通し）

日本政策金融公庫 総合研究所

DI = 「良い」企業割合 - 「悪い」企業割合（売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味する。）

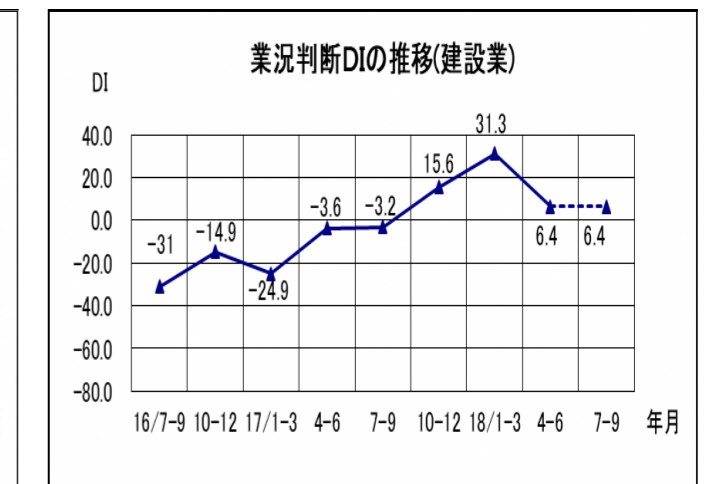
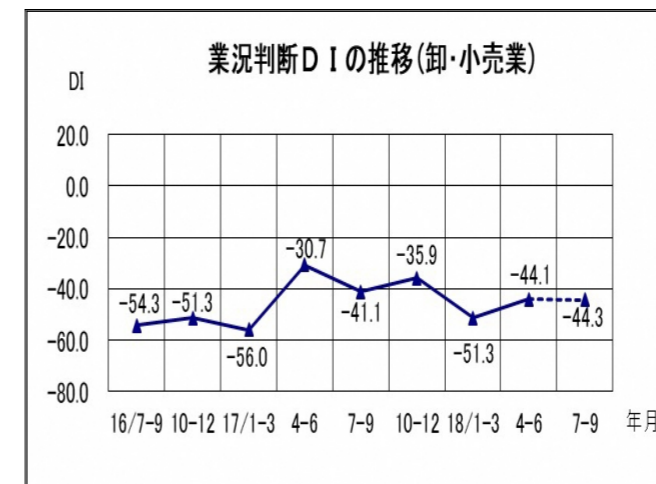
## 『緩やかに持ち直しているが、先行きに不透明感残る』

### ■村上市の業況

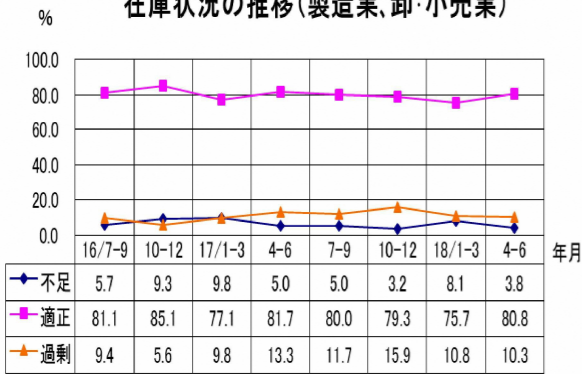


今期(18/4～6月期)の業況判断DI(全業種計)は、前期(18/1～3月期)に比べ、1.2ポイント低下し、▲23.9となった。前期における今期予測より7.3ポイント下回り、前年同期比でも10.8ポイント下回っている。今期DIが悪化した要因は、前期に寒波・大雪による除雪等で忙しかった建設業が落ち着き、その反動でDIを押し下げたため。

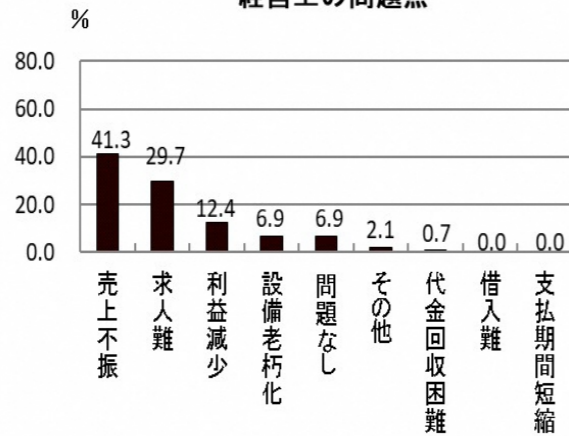
来期(18/7～9月期)については8.2ポイント上昇し▲15.7となる見通し。飲食・宿泊業とサービス業でDIの改善が見込まれており、夏休みやお盆など夏期需要拡大への期待感が伺える。一方、人手不足の影響の深刻化や、原材料費・燃料費の上昇と価格転嫁の遅れ、消費者の節約志向、米国の保護主義的な関税措置に端を発する貿易摩擦の影響を懸念する声もあり、留意する必要がある。



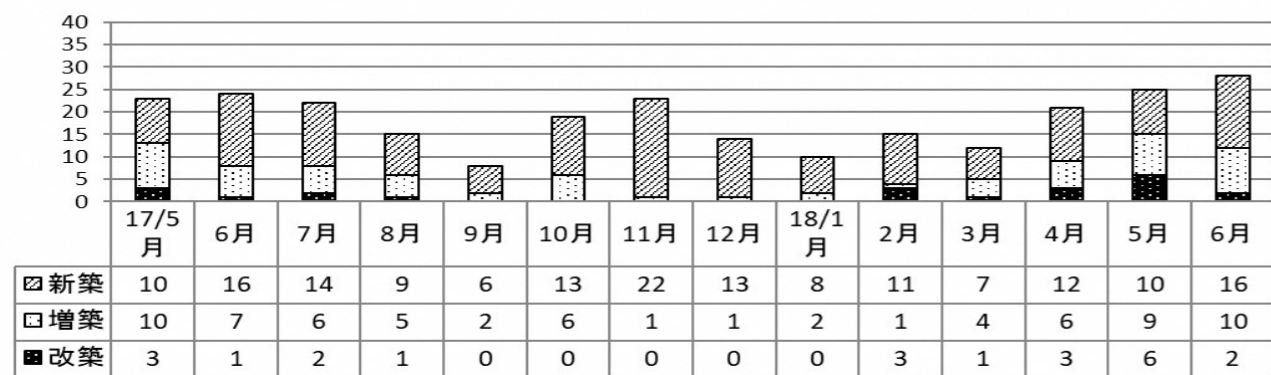
### 在庫状況の推移(製造業、卸・小売業)



### 経営上の問題点

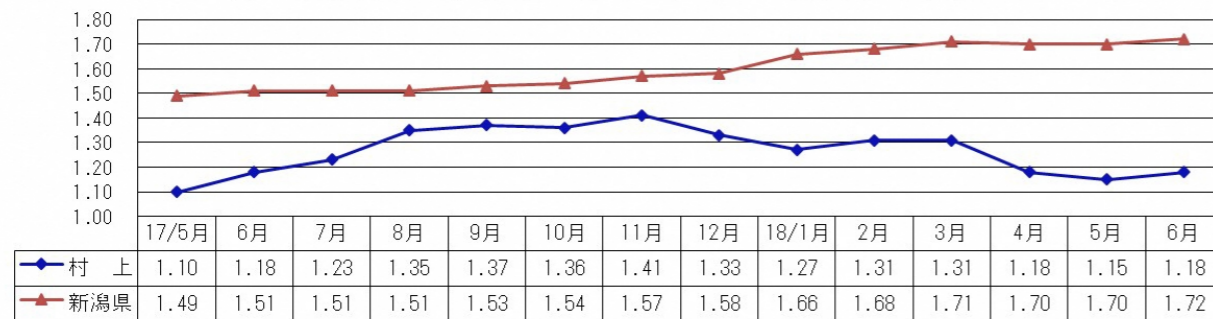


### 建築確認申請・工事届件数



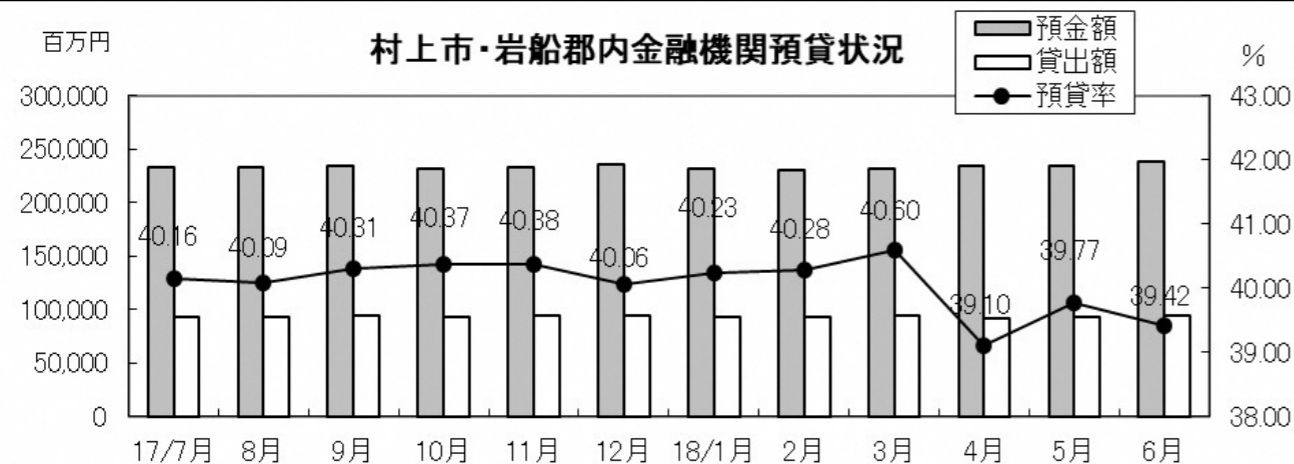
※本データは、新築・増築・改築の申請があった建築確認申請(民間受付含む)と工事届の合算となります。

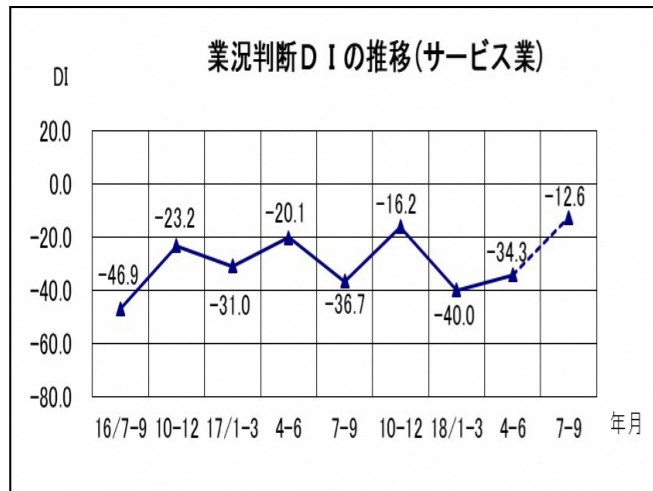
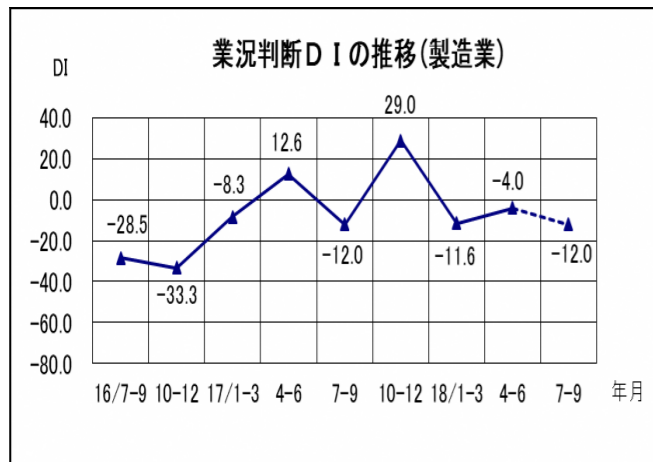
### 村上職安管内有効求人倍率(パートを含む全数)



※上記有効求人倍率は、季節調整値再計算により改訂した数値を記載しています。

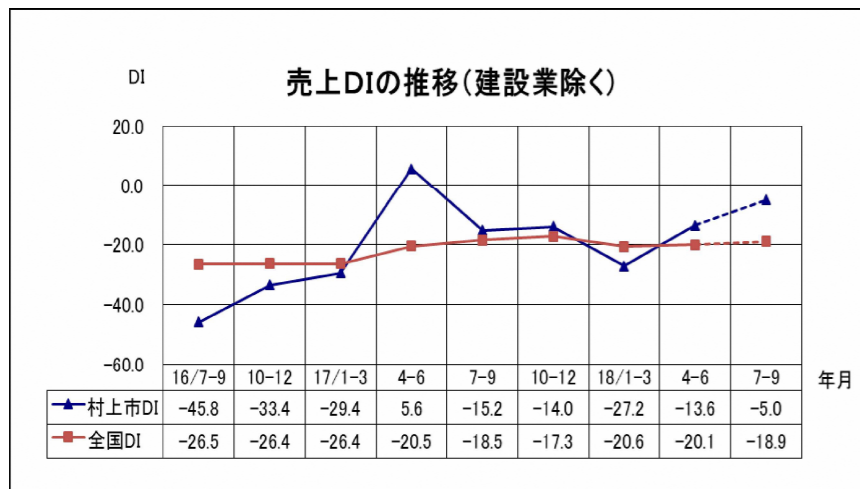
### 村上市・岩船郡内金融機関預貸状況





今期の業種別業況判断DIは前期比で、卸・小売業が春の需要拡大や店舗改装による来店客数増加、求人難を家族従業員で賄いコスト削減を図るなどして7.2ポイント、製造業が受注確保、在庫削減・リードタイム短縮の自助努力等で7.6ポイント、飲食・宿泊業が歓送迎の宴会増や工事関係者の長期予約などで3.7ポイント、サービス業が顧客増加、受注確保等で5.7ポイント、それぞれ増加した。建設業は、受注、売上不振で24.9ポイント低下した。

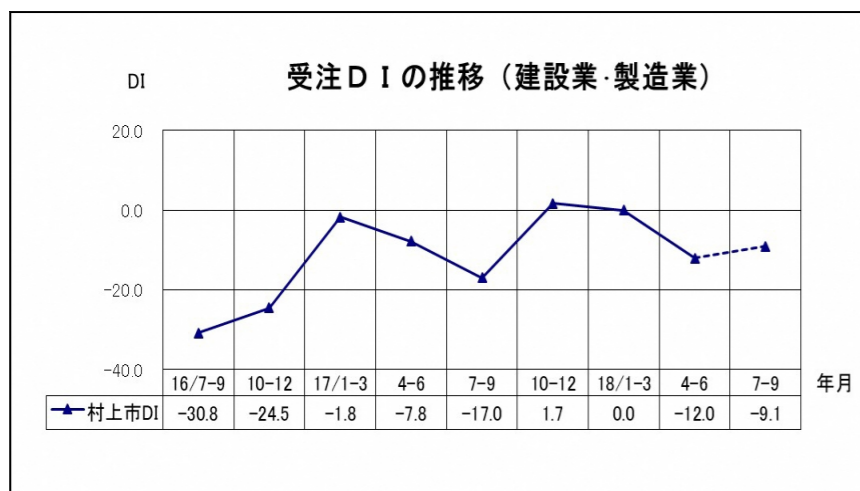
来期については、製造業以外はDIが横這いか上昇する見通し。寄せられたコメントに①今夏の高温が売上増に(卸・小売業)、②人材不足で仕事量がこなせない(建設業)、③原料・包材の高騰で利益圧迫(製造業)、④夏期による宿泊予約増(飲食・宿泊業)、⑤成約順調(サービス業)等があった。



今期の売上DI(建設業除く)は、前期に比べ13.6ポイント上昇し、▲13.6となった。前期における今期予測よりも11.0ポイント上回ったが、前年同期比では19.2ポイント下回った。

全国DIは、前期と横這い圏域の▲20.1となった。

来期については、8.6ポイント上昇し▲5.0となる見通し。全国DIも、1.2ポイント上昇し▲18.9となる模様。

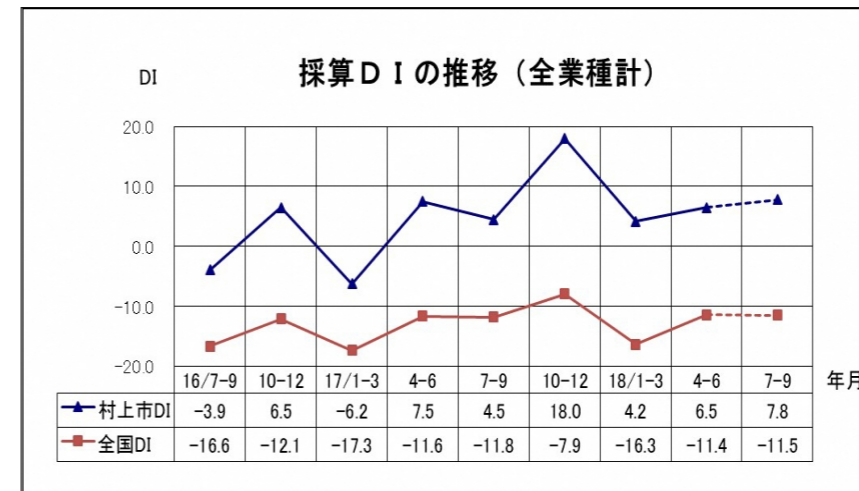


今期の受注DI(建設・製造業)は、前期に比べ12.0ポイント低下し▲12.0となった。前期における今期予測よりも6.7ポイント上回っているものの、前年同期比では4.2ポイント下回っている。

来期については、2.9ポイント上昇し▲9.1となる見通し。

(DI内訳)

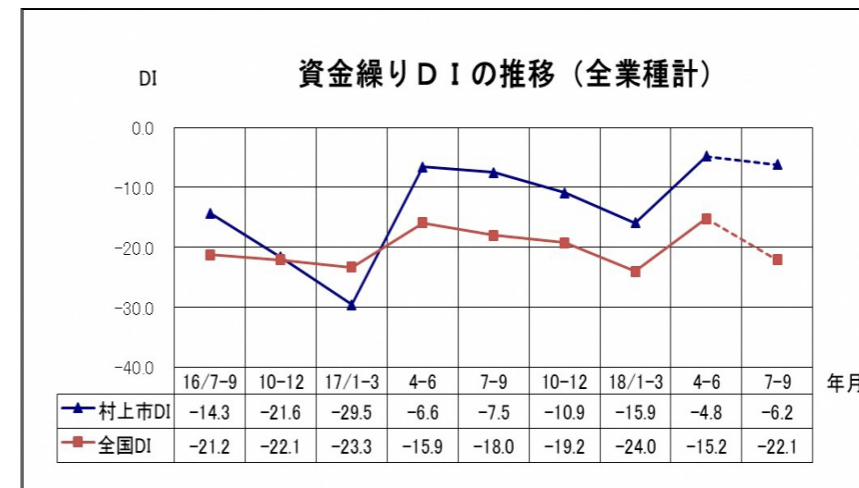
	前期	今期	来期
建設業	31.3	±0	▲6.7
製造業	▲11.6	▲13.6	▲4.0



今期の採算DI(全業種計)は、前期と比べ2.3ポイント上昇し6.5となった。前期における今期予測より3.7ポイント上回ったが、前年同期比では1.0ポイント下回った。ここ10期(四半期)一進一退が続いているが4期連続のプラス圏域は調査開始(08/4~6月期)以来初。

全国DIも4.9ポイント上昇し、▲11.4となった。

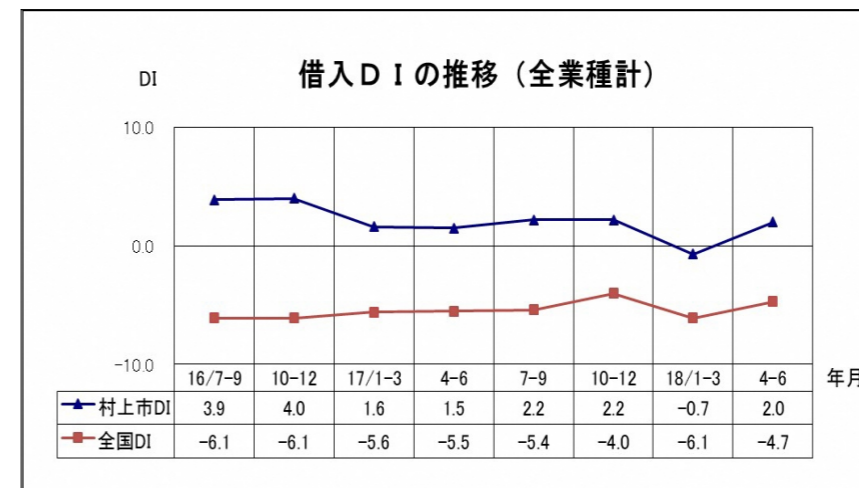
来期については、更に1.3ポイント上昇し7.8になる見通し。全国DIは、横這い圏域の▲11.5となる見通しである。



今期の資金繰りDI(全業種計)は前期比11.1ポイントの上昇で、▲4.8となった。上昇は4期振り、前期における今期予測より1.4ポイント下回ったものの、前年同期比で1.8ポイント上回っている。

全国DIも8.8ポイント上昇し、▲15.2となった。

来期については、1.4ポイント低下し▲6.2となる見通し。全国DIも6.9ポイント低下し、▲22.1となる見通しである。



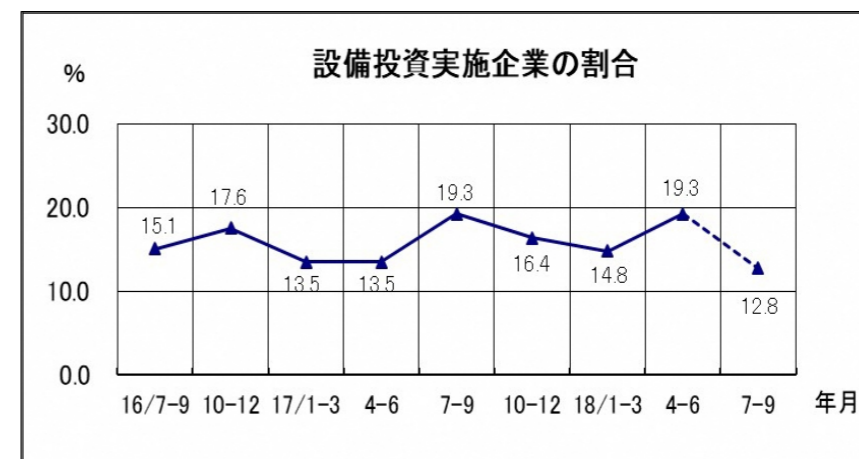
今期の借入DI(全業種計)は、前期と比べ2.7ポイントの上昇で2.0となり、プラス圏域に復活した。

〈内訳は以下の通り〉

「容易になった」  
前期 2.1% → 今期 4.8%

「変わらない」  
前期 44.4% → 今期 39.3%

「難しくなった」  
前期 2.8% → 今期 2.8%



全業種における今期に設備投資した企業の割合は、前期と比べ、4.5ポイント上昇し、19.3%となった。前年同期比でも5.8ポイント上回っている。

来期に設備投資を予定している企業の割合は、6.5ポイント低下し12.8%となる見通しである。